

研修9日目。朝食の場では、「日本に帰りたくない」「もっとアメリカにいたい」という声が聞こえてきました。泣いても笑っても、本日が研修の最終日です。朝食後、滞在しているホテルに大澤さんが来てくださいました。本日は一日中NYの行程をご一緒頂きます。昨夜は時間の都合で話しかけられなかった生徒さんも、ここぞとばかりに質問をしに向かいます。

最初に訪れたのは国際連合（UN）です。本部の中を案内してもらえるツアーに参加しました。全体を3つのグループに分けて、広報担当のスタッフの方から説明を受けます。UNが携わる仕事として、国際平和活動としての経済社会開発、人道支援、国際法などがあります。スタッフはもちろん英語で話していきますが、スタッフの方の1名は日本人の女性でした。パレスチナ問題、地雷の撤去、核爆弾など、国連が関わってきた具体的な活動についても教えて頂きました。

UNを見学した後は、バスに乗って国連プロジェクトサービス機関（UNOPS）に向かいました。UNOPSとは、国連システムとパートナーに向けて、リクルートや資材購入、平和維持活動など、独立した取引サービスから開発管理まで必要なものを提供します。椎名規之さんは、**Peace and security cluster**として、地雷を除去する方法の開発、備品の購入、地雷回避教育を担当されています。現在は地雷以外にも不発弾を処理すること、地雷で怪我をした人々のサポートにも携わられています。活動地域は、アフリカ、コロンビア、アフガニスタンです。もともとは日本のNGOで緊急援助活動をされ、国連の地雷除去センター、国連開発計画等、いくつかの仕事を経験されています。予め生徒さんからは、椎名さんに聞きたい質問を回収していました。

例えば、「国連機関で働く男女比」

「国連拠出金の割に職員数が少ない要因はなにか」

「国連機関の中で唯一の独立採算制・成果主義で日本人が働きやすいと聞くが、実際の現場は働きやすいか」

生徒さんは椎名さんに質問する為に国連が果たす役割やUNOPSの働きを調べてきました。椎名さんはそれに対して、とても丁寧に答えてくださいました。

講演会の最後には、「他国の人を助けたり地雷処理をしたりすること自体は自分のためにはならないと思うが、何のためにやっているのか」という質問に答えてくださいました。

「世界はつながっている。そこから離れて暮らすことはできない。911以降の世界を振り返ってみると、それがよく分かる。」この言葉をどう受け止めて良いのか。私たちは911メモリアル博物館に向かいました。

生徒さんにとっては生まれる前の（生まれた直後の）出来事です。当時ニュースで流れた映像や、爆発の衝撃でまがった柱、焼け焦げた救急車、生死を分けた階段など。皆一様に

慎重な面持ちで展示室から戻ってきて、言葉少なくなっていました。現実の出来事として受け止めるには、あまりにもリアルな展示物を見ることが出来、椎名さんの言葉を思い出しました。

バスは博物館を後にして、再度マンハッタンを進みました。次はこの研修最後のプログラム、群馬県人会の方との交流会です。NY で働く群馬県出身の方々にお会いしました。会場では大澤さんが手配してくださったサンドウィッチや巻き寿司、から揚げやケーキなど、懐かしい日本食の味を堪能することが出来ました。今回お越し頂いたゲストの方は、群馬銀行（二名）、不動産・イベントプロジェクト、弁護士、インテリアデザイナー、セラピスト、高級ランジェリーショップ等、様々な職業の方です。もちろん OG のゲストもいます。ここでも予め準備していた質問をゲストの方に聞いていきます。会場は笑顔に溢れ、熱気に満ちています。ゲストの方の職業に対する興味だけでなく、英語を学ぶこと、海外で働くこと、日本は世界からどう見られているのか。群馬県先輩として、社会人の先輩としてお話を伺いました。交流会の最後は、もちろん校歌斉唱です。校歌を歌うことは決まっていたのですが、なかなか皆で練習する時間が取れませんでした。お越し頂くゲストの方に失礼なことは出来ないと、生徒さんはNY を移動するバスの中で歌の練習をしました。その甲斐あって、校歌は大成功。大澤さんを初めとする OG の方3名と共に、NY の夜に校歌が響き渡りました。

楽しい時間はあっという間に過ぎていきます。最後に生徒代表としてお礼の言葉を伝え、バスはホテルに戻ります。これでプログラムが終了するはずでしたが、有志の生徒さんから「もっと大澤さんの話が聞きたいから、ホテルに来てもらっても良いですか？」と要望がありました。交流会が終わったのが 21:30。明朝のフライトは 6:00 発なので、3:00 にはホテルを出発しないと間に合いません。それにも関わらず、最後の最後までこの貴重な機会を無駄にしたくない！と訴えてくれました。先生にも許可を取り、ホテルのロビーに集まった十数名の生徒さん。大澤さんと一緒に来てくださったのは、こちらも OG の大西さんです。質問は多岐に涉りましたが、大澤さんと大西さんはとても真剣に、時にユーモアを交えて答えてくださいました。たった 10 日間、長い研修ではありませんでしたが、多くのことを学びました。大澤さんからは「頭で考えるのと、実際に体験するのは大きく違う。これからの人生において、この研修で学んだことはとても価値がある。」とメッセージを頂きました。大澤さんと大西さんが帰られたのは 0 時を回ろうとしている頃です。数時間後にはスーツケースを抱えて日本に戻ります。研修前は「英語を話せるだろうか」「ホストファミリーや留学生と交流ができるだろうか」と不安を抱えることもありました。嬉しいこと、辛いことを経験して一回り成長した生徒さんと共に学校に戻ります。お帰りを楽しみになさっててください。以上で本日のご報告とさせていただきます。

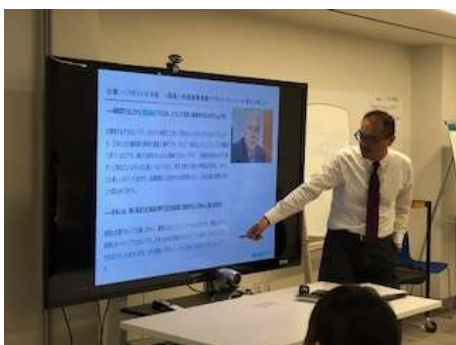
国連



UN ツアー



UNOPS の椎名さん



911 メモリアル博物館



群馬県人会との交流



OG の大西さん



校歌斉唱

